

2月18日(木)

第6週目は「教育政策の制定と評価 (Educational Policy Formulation and Evaluation)」をテーマに研修が行われ、本日はグループBによる1時間半の議論が行われました。研修員は7名が参加しました。

事前研修において、研修員は仮想プロジェクトを形成する課題が与えられました。その内容は、コロナ禍において閉鎖された初等教育機関に対し、学習を継続させるためのプロジェクトを策定するという課題であり、プロジェクト形成に必要な指針が与えられました。これらを基に本日は各々が計画した、ICTを用いた遠隔授業や、感染拡大の予防対策、学校の改修や増築などに関するプロジェクトの発表がありました。与えられた指針の中には「アウトプット」と「アウトカム(成果)」の項目があり、研修員から「これらの違いがよくわからない」、「1つにまとめてもよいのではないか」との意見が挙がりました。吉田先生は、事前研修資料および研修員が形成したプロジェクト計画を基に、アウトプットとアウトカムの違いを話され、更に研修員たちの課題を基に説明されました。研修員は「より明確になった」と、説明に理解した様子でした。

また、「研修員らの課題に論理的な欠陥はないが、予算や期間、人々の反応など実現可能性も考慮すべきである」と吉田先生がコメントされ、それに対して研修員から「プロジェクトの実現可能性を高めるためには、どのような活動を追加すべきだろうか」と質問がありました。吉田先生は「『誰が何をすべきか (who should do what)』を考えることが重要だ」と回答されました。

その他にも研修員同士で質問や感想を言い合う活発な議論が行われました。

